

TAKE
FREE

「現代仏壇ができるまで」取材したマガジン

現代
仏壇®

FREELY 十
2025

祈りの空間を作る技

現代仏壇製作のエキスパート 新木コーポレーション

『灯りの仏壇』誕生秘話 studio KAZ

仏具に込められた願い 一風工房

INDEX

03 職人の技が息づく、モダン仏壇と仏具

■ ショコラ

クラフト感あふれるおしゃれな扉

■ ブリリオ・アンティコ

祈りの空間を照らす『灯りの仏壇』

■ 月の華・星の夜・丘想う

絵本の世界のような 素朴な表情の仏具たち

06 - 工房取材 - 現代仏壇ができるまで

現代仏壇製作のエキスパート 新木コーポレーション

『灯りの仏壇』誕生秘話 studio KAZ

仏具に込められた願い 一風工房

17 - 位牌特集 - あの人を偲ぶ、モダン位牌

商品情報の見方

● サイズの記号

W/D/H 等の単位がない数字は
商品のサイズ (mm) を表しています。

W=幅 D=奥行 H=高さ

● QRコードについて

・ MOVIE

スマートフォン等で QRコードを読み取ると
工房紹介の YouTube 動画をご覧いただけます。

・ AR

スマートフォン等で QRコードを読み取ると
画面に 3D の仏壇が表示されて

実際の部屋に試し置きすることができます。

詳細は裏表紙をご覧ください。



職人の技が息づく、モダン仏壇と仏具

200種類以上ある現代仏壇と仏具の中からクラフトマンシップが活きた商品を厳選。
大切な祈りの場所にふさわしい、手仕事の魅力が感じられる。

クラフト感あふれるおしゃれな扉

▶工場紹介はP7から!

182個ものウォールナットの無垢材を組み合わせた扉が特徴の「ショコラ」。職人が異なる木目と高さのパーツを手作業で並べて製作しており、表情のある扉は開けても閉めても、インテリアのようにおしゃれ。

奥行30cm以下という薄型設計で、限られたスペースの上に設置しやすいのも人気の理由。取り外しができてお掃除が簡単な須弥壇や、線香や念珠を収納できる引き出しが付いている点も便利。



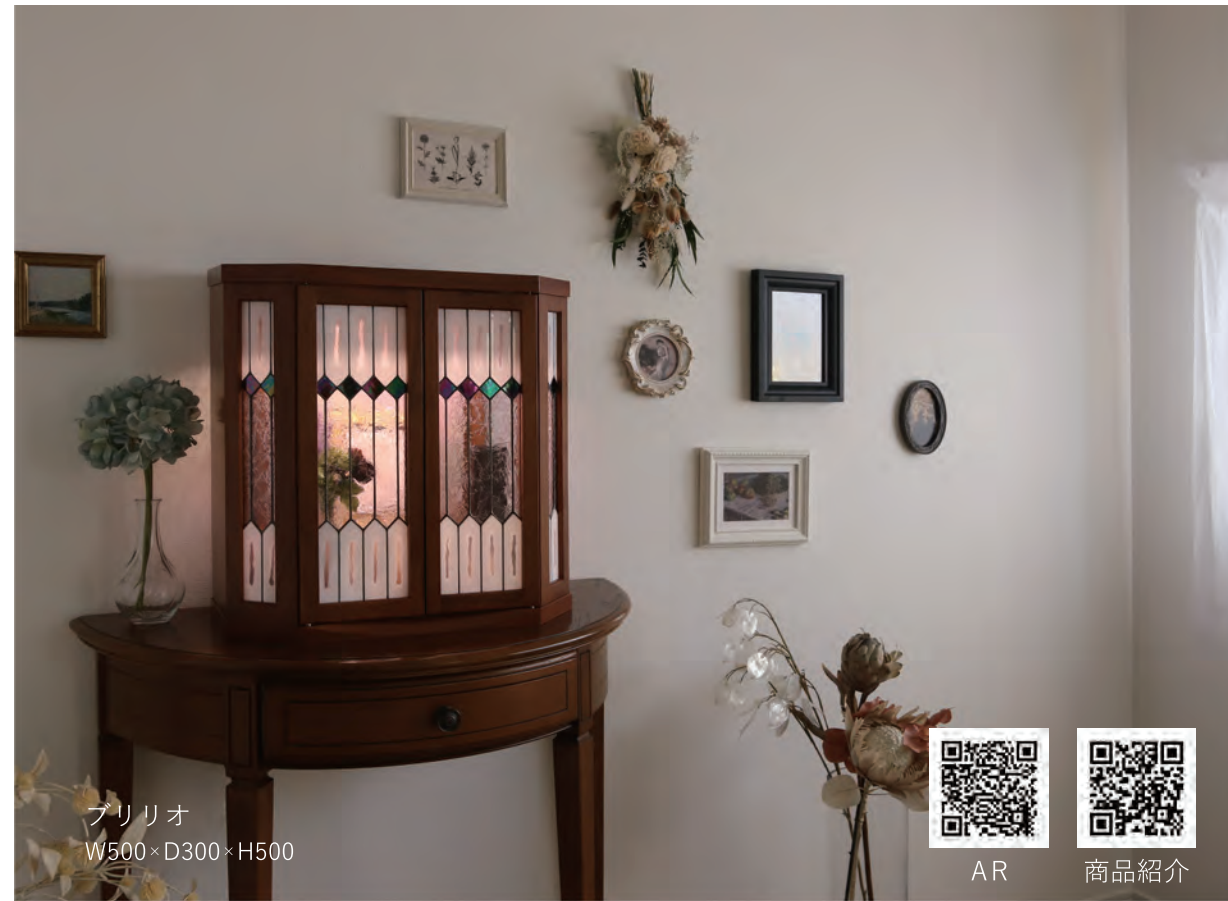
ショコラ
W400×D292×H404



AR



商品紹介



ブリリオ
W500×D300×H500



AR



商品紹介

祈りの空間を照らす『灯りの仏壇』

▶工場紹介はP11から!

一目惚れで購入される方が多い仏壇「アンティコ」「ブリリオ」。目を惹く素敵でステンドグラスの模様が印象的で、ガラスから零れる光がランプのように美しく部屋を照らす。照明も工夫を凝らし、壁や床にも色彩が映るようにダウンライトを2つ使用した。

扉と内部、ほぼ全面にガラスを施し、どの角度からでも光を綺麗に見ることができる。形状は従来の四角い箱型ではなく、八角形なものポイント。アンティーク家具に合うのはもちろん、ノスタルジックなデザインなので実は和室にも合う。



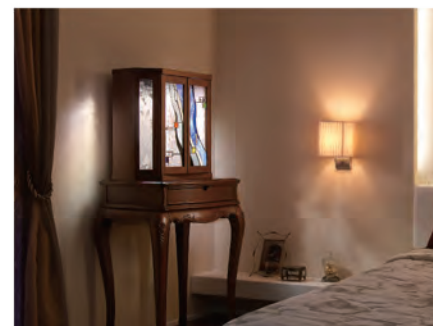
アンティコ
W500×D300×H500



AR



商品紹介



「工房取材」 現代仏壇ができるまで

現代仏壇・仏具は全国の協力工房と提携し、各々の特色を活かした商品開発をアウトソーシングで行っている。そのうち今回は3社を取材し、それぞれのように仏壇・仏具を製作しているかを伺った。商品に込められた想いと妥協しないものづくりをご紹介します。



丘想う(左) / 月の華(右3点)



星の夜

絵本の世界のような 素朴な表情の仏具たち

▶ 工房紹介はP14から!

陶芸作家市川和美氏が手掛ける全16種の五具足、ミニ骨壺、小物たち。味わい深い色味と優しい手触りが特徴的で、温かみのある形と模様は絵本や小説の世界を表現したかのような懐かしい印象を覚える。素朴ながらモダンで、どの仏壇にも合わせやすい。



MOVIE



▲塗装設備も新木コーポレーションの強みの一つ。下塗りから仕上げまで全て自社で作業が可能。小さな埃やゴミの付着を防ぐクリーンルームも完備している。

株式会社新木コーポレーション

現工場は平成3年新設。2階はショールームも兼ねており、家具を購入することができる。



また家具の産地である旭川や飛騨のように分業する外部の専門業者が周囲にないもの、前述の機械とそれを扱って加工ができる職人が揃っているため、最初から最後まで自社で製作を完結できるのも大きな強みだ。

「高い品質が求められるので小さな傷や凹みがないか、各工程で厳しくチェックしています。また仏壇は部材が多く、少しの誤差があるだけで、組み立てが困難になるので各部の寸法精度は非常にシビアです」と一般的な家具と現代仏壇を製作する上での違いを教えてください。



最も多くの現代仏壇を担う 仏壇製作のエキスパート

鳥取県にある株式会社新木コーポレーション。6315㎡もの広い工場には、約80台の機械と様々な種類の木材が並ぶ。30名程の職人が在籍し、30代の若い世代も多い。創業は昭和7年に遡り、「当時は木に関するものなら何でも請け負う家具メーカーだった」と代表取締役の新木雅章氏。昭和30年頃から高級婚礼家具のメーカーとして販路を拡大。現在は培った高い技術力を活かし、公共施設やホテル、カフェなどの特注家具を中心に製造している。現代仏壇の製作には平成6年から携わり、冒頭で紹介した「シヨコラ」、スタイリッシュな仏壇「ガラ」「アルデバラン」から「ルピナス」「セダム」といった定番のロングセラーまで幅広いデザイン、サイズの仏壇を数多く手掛ける。新木氏は当初を振り返って「現代仏壇の検査は厳しいけれど、うちの婚礼家具も品質重視で作っていたから基準が合ったのではないかな」と語る。

工場の強みは、コンピューター制御の設備が充実している点。これにより職人が安全に作業でき、安定した品質を保つことができる。



MOVIE

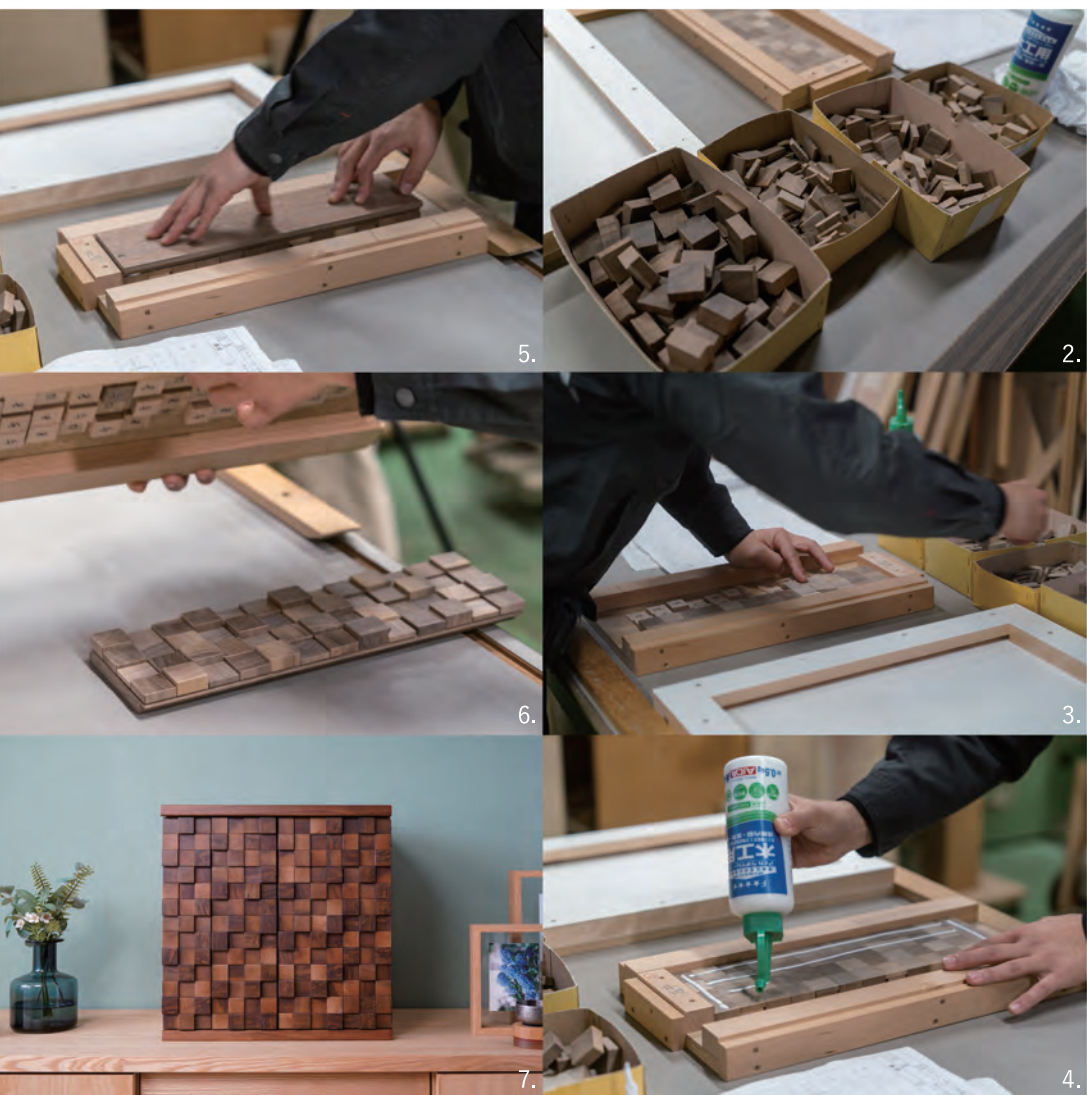


扉の製作工程

1. 無垢材をパーツのサイズに切り出す。
2. 研磨して完成したパーツ。
3. 型にパーツの高さを揃えながら、
木目の見え方を調整して一つひとつ並べる。
- 4.5. 扉のベースと貼り合わせる。
6. ひっくり返して取り出す。
7. 塗装して取り付けした完成品。

高い精度が求められるショコラの扉

現場で製作を担当する製造部課長の泉光太氏に話を伺った。ショコラの扉は品質を一定に保つため、泉氏が一人で作業している。1ロットにつき使用する無垢材のパーツはなんと三七〇〇個。実際に見学すると、職人の技量で仕上がりが大きく左右されると感じた。泉氏曰く「一個ずつパーツを確認していくので、機械だけではできない作業」とのこと。多くの小さなパーツを組み上げるため、切り出す際の寸法が少しでも狂うと全て組み終わった際に大きな誤差が生じる。「木材は人工乾燥させていますが、それでも無垢材は生きているので多少伸縮します。都度チェックしないとイケません」。寸法と並行して、パーツの凹凸、木目も確認しながら組み合わせる。木目の柄は様々なので、全体のバランスには繊細な感覚と職人ならではの目利きが重要。「精度が求められるし、かなり根気がいります」と語る。職人としての技術や感性、そして粘り強さが必要な、まさに手仕事の集大成ともいえる作業であることが伝わってきた。(▼ショコラの紹介はP3)



『灯りの仏壇』誕生秘話

長野県安曇野にあるstudio KAZ(カズ)。自然豊かな山の麓で、「アンティコ」「ブリリオ」のステンドグラスは作られている。工房を営む大須賀昭彦・和子夫妻を訪問し、ステンドグラス仏壇が生まれたきっかけを伺った。

二人の出会いにはロンドン。当時昭彦氏はカメラマンとして現地で勤務し、和子氏は語学留学中だった。結婚後はバルセロナに滞在。ものづくりとは無縁だったが「住んでいるマンションの装飾に使われていたり、仕事で撮影したり、今振り返ると身近にステンドグラスがあった」と昭彦氏。作家を目指したきっかけは、帰国してから京都の自宅の近くにあったステンドグラス教室に和子氏に通っていたこと、また昭彦氏の勤めていた喫茶店がガラス作品も取り扱うショップだったこと。そこでガラス作家に出会ったことが始まりだったそう。いざ制作を始めてみたものの、最初は参考書籍を読みながら手探り状態でのスタートだった。

大須賀夫妻の作品はランプが中心で、シック且つ繊細なガラスの表情が特徴的。従来のステンドグラスと言えば、アール・ヌーヴオーの華麗な装飾のイメージが強い。「それにはあまり惹かれなかったので、オリジナルを追求していった」と今のスタイルに。シンプルモダンながら和の要素も取り入れたランプたちは、日本の住まいとも相性が良い。夫妻の制作過程は、まず最初に二人でデザインを相談しながらプランを立てていく。3D図面での設計とガラスのカットは昭彦氏、はんだ付けは和子氏が担当して、組み立ては二人で…と夫婦二人三脚で作られている。ガラスは光の加減で見え方が変わり作品の印象を左右するため、各々の特性にこだわり、輝きや印象を考慮して選んだり、加工を加える。例えばアンティコはアクセントにプリズムガラスを使用。ブリリオはガラスの表面をサンドブラストで加工して柔らかい質感に変えている。また材料のガラスは海外から輸入されており、手作りで希少性が高く入手しづらい。商品のイメージを変えないよう選ぶのはとても苦労していると語る。

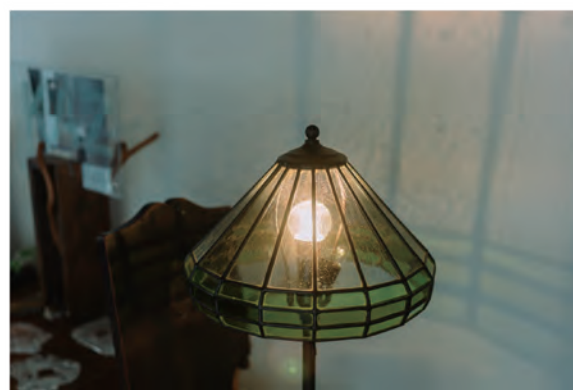
▼工房内にある作品の展示スペース。歴代のランプなどの作品を複数飾っている。



▼製作中の「アンティコ」。切り出したガラスを図面に置き、細部を調整していく。特に曲線と曲線を合わせる作業は難しく精度を求められる。



▶ 自宅兼工房は友人の建築家が設計。夫婦で手掛けたガラス窓には中央付近をよく見ると工房の名前「kaz」の文字が浮かんでいる。



◀ 和子氏が教室で初めて作ったランプ。壁に映る灯りも幻想的で、今の作品の原点が窺える。「作品を見るのは好きだったが、自分がものづくりをする側になるとは思ってもみなかった」



仏具に込められた願い



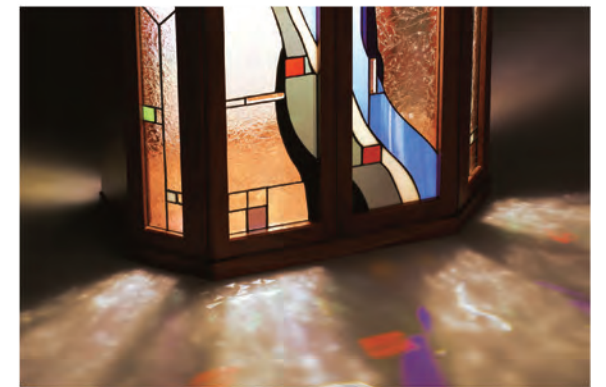
開発当時を振り返って

「アンティコ」「ブリリオ」のスタンドグラス制作の際にずっと使用しているというファイルを見せてもらった。当時の提案からガラスの図案など、夫妻のこだわりや長年の作業の軌跡が感じられる膨大な記録が残されていた。

現代仏壇制作のきっかけは、当社が直営店ギャラリイメモリアに飾るランプを購入したこと。「まさかそこから仏壇を作ることになるとはね」と昭彦氏。当初考えていたデザインの仏壇は「四角い箱の人形ケースみたいでピンと来なかった」と『灯りの仏壇』をテーマに、スタンドグラスをメインとした八角形のスケッチを夫妻から提案。実際にその図面を見ると、今の「アンティコ」そのもの形だった。その時は参考になればと思っていたそうだが「まさか採用されるとは！」



「アンティコ」は有機的な模様、青が特徴的。光を灯したときに周囲に模様が映える。「ブリリオ」は白を基調としたシンプルでシックな印象。規則的に並んだ柄が夫妻らしく洗練されたデザインだ。つい最近「供養」を実感する出来事があったと言う。亡くなった方のためにランプを購入されたお客様から、厨子の隣に飾っているのを見せてもらった時、「故人様に語りかける場所づくりのお手伝いできたのかなと思ったの」と和子氏。昭彦氏も最近兄弟を亡くされ、供養を考える機会が増えたそ



う。「例えばローソクを灯して、灯りの中にその人がいる…そんな風に想像した際に気持ちの向かう先。何か一声かけたい時のために仏壇があるんじゃないかと思う。宗教じゃなくて目に見える形の繋がりでも言うのかな、私たちの作る仏壇が、そういう存在になってくれたら嬉しい」と仏壇への想いを語った。(▼アンティコ、ブリリオの紹介はP4)

studio KAZ

大須賀昭彦・和子夫妻が1984年京都にて創業したスタンドグラス工房。現在は安曇野に移転。個展を中心に作品を発表し続けている。





生駒の工房を訪ねて

「月の華」「星の夜」など複数の仏具の生みの親、市川和美氏。緑に囲まれた工房で、美しい自然を思わせる独自の世界観を持った作品を制作している。約20年前に五具足を手掛けたことから始まり、ミニ骨壺や小物などこれまでに16種類の仏具が誕生。長年多くのユーザーに愛され続けている。

始めに土を練り、成形、乾燥、下絵、素焼き、施薬、本焼き、絵付け、焼き付けという工程を踏み、制作期間は手作業のため最低でも2ヶ月に及ぶ。市川氏は器の形状によって手びねり、ろくろ、タタラの3種の成形方法を使い分ける。それぞれに難しさがああり、熟練の技が必要だ。また釉薬は独自に配合したもの。色の出方は土の成分や配合、窯の還元*の雰囲気によって変化するため、全く同じものを作ることはできないという。イメージしている色が出るように、長年の経験を踏まえつつ何度も試行錯誤を重ねて調整している。「だから毎回同じ作品は出てこないでしょう？どう焼き上がるのか、いつもドキドキしながら窯を開けています」



① 設計図を基に粘土を切り出す。



② 板状に切り出した粘土を調整しながら斜めに削る。



③ 器に貼り合わせる。



④ 指やヘラを使い整えていく。

中でも作るのが難しいという四角い形の仏具「月の華」「星宿る」のタタラ成形を目の前で見せてもらった。板状の粘土を設計図を基に切り出し、面を削って角度を出す。先に同じくタタラで作っておいた器の四隅に貼り合わせ形を整えたら、実際の形状に合わせて削り出す。繋ぎ目の多いデザインなので亀裂が入りやすくしっかりと接着させて強度を保つことが不可欠。高い技術と時間が必要な作業である。



▲「星宿る」花立の乾燥する前と後。縮んでいることが一目で分かる。乾燥と素焼きを経てサイズが大きく変わるため、成形時は縮む割合も考慮して設計図を検討しなければならない。乾燥後は、表面に模様と絵付けのための下絵を刻んでいく。

仏具に込めた願いを聞くと「様々な祈りのカタチがある中、それぞれの想いで大切な人とつながる時間に、私の制作した仏具がお役に立てればとても幸せだなと思います」と微笑む姿が印象的だった。
(▶仏具の紹介はP5)



- 1.2. 「イコマグロ」と呼んでいる赤い釉薬は焼成して鈍く光る黒色に発色させている。工房の裏山の生駒土を配合。
3. 焼成した陶器への絵付け作業。こちらは五具足「月明り」の花立。細い筆を使ってプラチナ彩と金彩で繊細に模様を描く。
4. 再び窯で焼き上げると、上品な光沢をもつ金と銀色で模様が浮かび上がる。

※還元…窯の中の酸素を少なくすることで、色や質感を変化させる焼成技法。



一風工房
1978年に奈良県生駒市の雑木林に囲まれた山中に築窯し、個展を中心に活動している。

あの人を偲ぶ、モダン位牌

位牌は故人そのもの。近年では黒い漆塗りだけではなく、様々なデザインと色があり人気が高まっている。大切な人のイメージに近い位牌なら、もっと身近に感じられそう。最新のモダン位牌をご紹介します。



和モダンで スタイリッシュデザイン

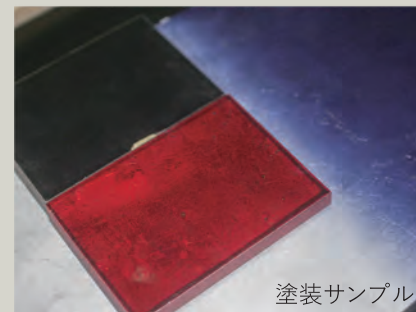
金属箔の模様が浮かぶ透明感のある塗りが特徴の位牌「宝珠」。シンプルモダンながら伝統的な位牌のイメージも取り入れているので、落ち着いた雰囲気有位牌をお探しの方にぴったり。ブラック、ブルー、レッドの3色展開。

宝珠
4.5寸：W80×D55×H181（札丈135）
4.0寸：W80×D55×H166（札丈120）
3.5寸：W66×D50×H145（札丈105）



▼塗装の秘密

奥行きのある塗りは、金属箔の上に塗装を施して表現している。金属に美しく塗装することは非常に高度な技術を要し、加えて曲面への塗装となれば箔貼りや研磨で難易度が一層増す。これは豊富なノウハウを持つ工房だからこそ成し得る技術だ。まずは下地を整え、次に箔貼り、塗装、乾燥…といった10の工程を繰り返して、ようやくこの艶やかな塗りが完成する。



塗装サンプル



木目を活かした モニュメント位牌

すっきりとしたデザインのモダン位牌「レヨン」。札の『光線貼り』が特徴。台座には多面カットを施し、光と影が織りなす美しい表情を楽しめる。ウォールナットとメイプルの2種類から選べて、革新的なデザインは個性を尊重したい方におすすめ。



レヨン
4.0寸：W70×D39×H150（札丈120）



▲札の秘密

札は『光線貼り』によって仕上げた。職人の手で、18度にカットした20枚の突板を放射状に一枚一枚丁寧に貼り合わせ、この独自の模様が生み出されている。木目の反射角度が異なるため、光の線が道筋となって輝く。

金色が煌めく ラグジュアリーな位牌

柔らかな金色の台座が洗練された印象を与えるモダンな位牌「ノーブル」。台座と札の曲線的なデザインが上品で優雅な趣を感じさせる。シックなブラックと、位牌では珍しいホワイトの2色展開。華やかに輝く位牌はおしゃれだった故人を想わせる。



ノーブル
4.0寸：W63×D38×H167（札丈120）



▲台座の秘密

うっすらと模様が浮かび上がる台座。七宝柄の和紙に金箔を貼ってこの凹凸を出している。



位牌一覧

スマホで仏壇を試し置き！



仏壇AR

実寸大
表記

360°回転

アプリ
不要

AR(拡張現実)機能を使い、スマホで気になる仏壇を仮想的に置いて、サイズ感やデザインをお試しできます。

ARについて詳細はこちら▶



デジタルカタログ

全種類の現代仏壇・仏具をご覧いただけます▶



株式会社 現代仏壇

大 阪 / 〒537-0011 大阪市東成区東今里 2-7-37
TEL:06-6972-1201

東 京 / 〒146-0083 東京都大田区千鳥 1-10-12
TEL:03-5747-5355

販売店

※現代仏壇は当社の登録商標です「現代〇〇仏壇」「〇〇現代仏壇」などは当社と一切関係ありません 類似品に注意してください
※掲載商品は全て税込価格です ※製品の仕様は改善のため予告なく変更する場合がございます ※寸法表示と実際の寸法は多少の誤差がありますのでご了承ください
※掲載写真の仏具等の組み合わせは一例です ※カタログは印刷の特性により実際の色と異なる場合があります ※記載内容は 2025 年 4 月 1 日現在のものです